

令和7年度
北海道高等学校PTA連合会「高校生と語るつどい」事業
実施報告書

令和8年1月15日

北海道高等学校PTA連合会 会長様

北海道高等学校PTA連合会北見支部
支部長 佐藤孝洋
(当番校名 北海道北見柏陽高等学校)

本事業が、令和7年12月7日完了したので、次のとおり関係書類を添えて報告します。

記

1 事業実施概要

- (1) 期日 令和7年12月7日（日曜日）13時から16時まで
(2) 会場 北海道北見柏陽高等学校
(3) 実施形態
・ワールドカフェ方式
(4) 参加者等

ア 参加学校 9校

（校名：北見緑陵、美幌、佐呂間、遠軽、訓子府、北見北斗、網走南ヶ丘、大空、
北見柏陽高校）

イ 参加者総数 45名（講師を除く）

生徒数	引率数	保護者数	運営者数	その他	合計
27名	7名	6名	4名	1名	45名

(5) 事業内容

ア 事業の概要

若者が抱える今日的課題や将来へ向けての発展的事柄を自由に結論を求めず会話する。

イ 講師 黒井理恵様（さとのば大学取締役）

ウ テーマ 「校則」について考える

2 事業実施による成果

ワークショップ①では、生徒・保護者・教員が、講師のファシリテートによりグループ内で対話し、「だれもが安心して学べる学校（働く職場）であるために大切なことは何か」について考えた。ワークショップ②では、他校の生徒同士がグループになり、ルールづくりの肝について学びながら、大切にしたい価値を行動原則に落とし込む過程を体験し、グループごとにまとめた成果を発表し共有した。

生徒からは、「勉強ではつけられないような力を身に付けられた」「ルールを考える上で価値観や行動原則がとても大切だと思った」「他校の生徒や保護者、教職員の皆さんと交流するよい機会となった」等の感想があった。また、保護者や教員からは、「高校生と一緒に考える機会となり、様々な発想を知ることができて勉強になった」「校則をテーマにルールの大切さやルールづくりのプロセスを学ぶことができた」等の感想をいただいた。

3 今後の課題等

インフルエンザ等の影響も考慮して、各校から生徒・保護者・教員原則1名ずつで案内したが、生徒の参加人数を増やしてほしいという要望があったため、柔軟に対応した。

当番校会場の収容人数の関係もあるが、次年度以降、参加人数を検討してもよいと考える。